

# 節税レポート



平成 22年 7月号

発行日 2010.07.01

## 今月のテーマ 代表的経営分析指標 1

損益計算書、貸借対照表等の決算書類は税務署、金融機関への報告のため、作成するものではありません。

決算書はこの1年間、社長さん以下従業員の方がたが、日々努力した結果を数値で表したものです。

売上が増えた割には利益が出なかった。その原因がどこにあるのか？利幅の少ないものが、売れただけなのか？予定していた以上に経費が増えたためなのか？原因をみつけ、次期以降の対策をたてるためにあるのです。

決算書類は会社が自ら分析し、活用するためにあるのです。

経営分析のための指標を活用し、過去との比較、他社との比較を通して自社の強み、弱みを見つけていきましょう。

そうはいつでも経営分析のための指標は、100個近くもあります。これらの指標全部に自社の数値を当てはめてみても、頭が混乱するだけです。

時間のムダです。そこで、代表的な経営分析指標にしばってお話します。

会社を分析する角度は

1 収益性 2 安全性 3 成長性 4 効率性等から見ます。

この角度から代表的な経営分析指標について見てみましょう。

### 1 収益性を見るための指標

一番重要で、一般的な指標は総資本金当期利益率です。



利益率と回転率は業種ごとに、かなり特徴があります。大手の商社などは、数%しかない利益率を回転率が補っています。

もっと極端なのは、パチンコ店の換金所です。売上利益率は 0.1~0.3%ほどしかありませんが、年 50回余りある資本回転率で補っています。

## 2 安全性を見る指標

安全性を見る指標として一番良いのは、自己(株主)資本比率です。

算式は

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

です。

自己資本は返済期限のない安定した資本です。自己資本の比率が高いということは、安定した資金の比率が、高いことをあらわしています。自己資本比率の高い会社は、これまで収益性が高く、利益の蓄積がある。

また、その収益性の魅力で株式の時価発行などにより、自己資本を厚くすることができた会社が多いのです。

## 3 成長性を見る指標

成長性を見る指標は、増収率です。当期売上高が前期と比べて、なん%伸びたかです。

算式は

$$\text{増収率} = \left( \frac{\text{当期売上高}}{\text{前期売上高}} - 1 \right) \times 100$$

です。

現在のように、大会社でも売上高を減らしている時代にあって、増収を続けることは難しいことです。

また、利益を確保することの、困難な時代でもあります。

- ① したがって、ただ単に売上高が前年より増えていれば、一安心ということにはなりません。売上高が増えても、利益は逆に減ってしまうこともあるでしょう。そう考えると、営業利益なり、経常利益の増加率を見たほうが、より正しい評価(判断)になる場合もでてきます。
  
- ② 増収率は、当期と前期との比較ですが、3～5期続けて比較する必要があります。1～2期だけですと、特殊的、臨時的要因に左右されることがあるからです。